

平成30年度 第4回東京都相談支援従事者研修検討会 議事録【要旨】

日時 平成30年8月7日（火） 13時30分から15時まで
 会場 東京都心身障害者福祉センター 12階研修室
 出席者 秋元委員、池田委員、北川委員、佐藤委員、杉田委員、塚田委員、堤委員、中島委員、花形委員、吉澤委員、
 傍聴 4名
 欠席者 藤井委員
 事務局 東京都心身障害者福祉センター 7名

1 開会

事務局	<ul style="list-style-type: none"> 資料確認 次第 資料1 平成30年度 演習指導者養成研修について（専門員の姿チーム） 資料2 専門コース別研修のリストアップ（専門員の姿チーム） 資料3 初任研チーム資料 検討事項（初任者研修検討チーム） 資料4 H30年度東京都相談支援従事者研修会現任研チームについて（現任研修検討チーム） 今回の検討会議事録（要旨）は、ホームページ公開対象である。また、傍聴者がいることを了解していただきたい。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> 本日は、演習指導者養成研修と専門コース別研修についての方向性を決めることがメインのテーマになる。また、後半は、各チームで状況の報告を行い、今後の進め方について共有していきたいと考えている。

2 検討事項

(1) 平成30年度相談支援従事者研修 演習指導者養成研修について

佐藤委員長	演習指導者養成研修について、専門員の姿チームの北川委員より説明願いたい。
北川委員	<ul style="list-style-type: none"> 演習指導者養成研修については、これが実現していくように、講師の依頼等を含めて話をしたい。 過去に2年間試行的に行われてきたものであり、今後も進化させていきたい。今年度が最終形というイメージではない。 東京では現任研修を受けた後、主任研までスキルアップの場がないということになるので、この間の研鑽の場という位置づけと考えている。また、地域の中核人材の発掘の場でもあり、主任研へのステップアップの土台となるものと考えている。 対象者は、現任研を受講し、これから都研修のファシリテーターになる人。 研修の内容としては、 <ol style="list-style-type: none"> ① 知的、精神、身体等の各障害分野を理解し、障害当事者と支援者が創りあげていく、深みのある相談支援について学ぶ。 ② ファシリテーション技術を地域に持ち帰ってもらう。ただスキルを学ぶのではなく、それを地域に持ち帰る。これは、国研修でうたわれたところの「地域でのOJTの仕組みづくり」を含めて考えた。 昨年・一昨年は、ファシリテーションについて研修を行い、ファシリテーシ

	<p>ヨンスキルのうち、「場づくり」と「拡散（意見を集めそれを広げるところまで）」は丁寧にできていた。しかし、地域で実際に仕事をする際には、色々な立場の人からの意見を集約し一つの方向性を持っていくところが重要であり、そのスキルを学んでいきたいという意見が受講者から出ていた。</p> <p>チームでは「収束」「合意形成」をきちんととりあげることが大事と考え、この点を強調した組み立てにしたいと考えている。受講者の満足度も上がるのではないかと。</p> <p>③ 都の検討会の位置づけを明確にし、都の地域性の中で、あるべき姿を互いに想像して互いにつながりを持つことを理解してもらおう。</p> <p>④ 福祉制度の動向等、最新情報を知る。これは、初任者研修の講義テキストを活用する。初任者研修の講義を聴講することを可能にすると良いのではないかと。</p> <p>⑤ これらの内容を含む演習指導者養成研修の実施に当たって、複数講師により、同じ内容とレベルが維持できるようにするために、3年後をめどに演習指導者養成研修の講師の育成を図ってはどうか。一人の講師頼みでは、結局その講師が他県に行ってしまったなどが起こると、継続していかない。都の中で演習指導者養成研修ができる講師を確保していくという視点を持たないと継続していかない。ファシリテーターも裾野が広がってきて、その講師たちが地域で行っていけば、都頼みの演習指導者養成研修にならない。</p> <p>・この内容を理解していただき、今年の講師選定、依頼、演習指導者養成研修の企画に入っていきたい。</p>
佐藤委員長	<p>・資料1に基づいて詳しく話していただいた。質問等いかがか。これから3年をめどに創りあげていくという方向性が、チームの意向ということ。</p> <p>・意見・質問等ないようなので、この提案で了承としたい。</p>

2 検討事項

(2) 専門コース別研修について

佐藤委員長	<p>・専門コース別研修について資料2をもとに北川委員より説明をお願いしたい。</p>
北川委員	<p>・国研修で配付された資料を、チームとしてまとめたものが、資料2になる。</p> <p>・都ではまだ、専門コース別研修が行われていない。他のほとんどの道府県ですすでに行われているという認識のもと、都でどうするのかを考える必要がある。</p> <p>・また、都内ですすで虐待防止研修、強度行動障害研修など専門コース別研修にあたるのではないかとと思われるものがある。</p>
佐藤委員長	<p>・都としては、専門コース別研修の実施を考えていく上で、たくさんの意見を集めたい、できること、できないことを精査したいので意見がほしいとのこと。こんなものあったらいいなども含めて意見をいただきたいというのがこの議題の目的。委員の意見を伺いたい。</p>
塚田委員	<p>・都では初任者研修の時、国の標準カリキュラムに追加して、「障害者の生活ニーズ」の講義を1日行っている。内容的には専門コース別研修で良いのではないかと。</p>
吉澤委員	<p>・演習指導者養成研修と専門コース別研修の関係は、チームで話し合ったか。</p>
北川委員	<p>・ファシリテーター研修がこれにあたるかとは思いますが、そこまで深く話し合っていない。</p>

吉澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・専門コース別研修の実施形態としては、都直営で行うのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現在都では、専門コース別研修は行えていないが、制度改正のタイミングで、行えるようにしたいと考えている。直営で行うような道を目指したいと思っているが、すでに指定で色々な相談支援の研修が行われる仕組みがあるので、指定で専門コース別研修を行うことを否定するものではない。 ・専門コース別研修は、大きな規模で行うものから、割と小さい規模で行った方が良いテーマまで、様々あると思う。一律に「直営」「指定」という考え方ではなく、質的に色々なことが学べる研修が複数整っていて、そのことが広く認知されアクセスしやすいというようになっていった方が、受講する相談支援専門員にとっては良いのではないかと。直営・指定と一律に決めてしまうと、行えることが限られてしまう可能性がある。 ・31年4月からすぐに専門コース別研修が行えるかという答えにくいですが、今日は、こういうことは直営で、こういうことは指定で、などの意見を伺っておきたい。
杉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・専門コース別研修とは、主催する側が標榜していいのか。どのような範囲の研修を専門コース別研修と言うことができるのか。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば「共催」という形で専門コース別と標榜して良いのかということか。他の研修で、この資格の認定講座ですよというものもあるので、そのようなイメージか。
杉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・専門コース別研修の受講は、主任相談支援専門員研修の受講要件になっていたと思うが。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・国は、先々はそうしたいと考えているようだが、当面はならないと聞いている。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・その辺りも難しい。もともとある研修に「専門コース別研修」という名称を重ねて良いのか、新たに立ち上げるのか。チームとしては想定してこなかった。自分としては、新たに立ち上げるイメージでいたが、事務局としてはどうか。
北川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・杉田委員の意見も集約しておいた方が都としては良いのではないかと。 ・手挙げ式で、「専門コース別研修に認定してください」と言って認定されるものなのか、となってしまう。基準が何なのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性の高いものは、直営で行おうと思っても限界があるので、その分野を得意とする人たちが行えると思う。そういった意見もいただくと、議論が深まる。 ・相談支援従事者研修の指定の要綱に基づいて、条件を満たして東京都が指定した場合、相談支援従事者専門コース別研修と名称をつけて開催できるということではないか。直営で行う場合には、東京都の実施要綱の中に、今は初任者研修と現任研修のみ入っているが、その中に専門コース別研修も入ってくれば、直営で専門コース別研修を行っているということになる。 ・「専門コース別研修」という名称は、障害者総合支援法の人材育成研修の中での名称なのだが、これによらないで、様々なところで「専門的な内容の研修」は行われている。名称がまぎらわしく、位置づけがわかりにくい。
地域支援課長	<ul style="list-style-type: none"> ・要綱上どのようなになっているかは、改めて確認したい。
吉澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・仮に要綱ベースとしたら、国研修を修了した人が要件になってくる可能性もあるわけで、専門領域の研修を受けたとしても、「相談支援」との関係はどうか、ということに落とし込んで持ち帰ってもらえるようになると良い。ただ単に「スー

	パービジョンはこうですよ」という話で終わるのではなく。
事務局	・相談支援研修の中での専門コース別研修となるので、一般的な内容ではなく、要綱上示している要件を満たした内容にすることになると思われる。
塚田委員	・演習指導者養成研修を専門コース別研修と標榜して良いのか。
事務局	・そのようにしている県もある。
塚田委員	・東京都では、専門コース別研修を行っていないと言われているようだが、初任者研修の講義 4 日目や演習指導者養成研修など、意外と近いことは行っていると思われる。今実施しているものを専門コース別研修にしても良いのではないか。 ・主任相談支援専門員研修で必須と言われれば、考え方が変わるかもしれない。
佐藤委員長	・直営か委託かということは今後議論いただくとして、資料 2 のリスト以外にもあったら良いというものはあるか。私のほうでは、難病やヘルスプロモーションを挙げた。広く学べるかと思ひ、相談支援にも関わる内容と思われる。この枠にとらわれず学んだほうが良いものはあるか。
塚田委員	・種別研修。4 日目の研修は難病なども入っているので、アンケートでも毎回評判が良い。国の標準カリキュラムには載っていないが、講師もすでにいるのであれば、直営で実施してほしい。どんな形でも残してほしい。
北川委員	・サビ管研修は、分野別研修がなくなると聞いているが、うまく組みせられるのではないか。今までは、かなり細かいことまで分野別研修で分野ごとに行っていた。その部分を専門コース別研修に組み直すという形もとれるのではないか。
佐藤委員長	・専門コース別研修のリストアップの資料を含めてこの提案にはご了承いただけるということによろしいか。これをもって東京都に検討していただく。

3 新カリキュラム準備

(1) 各作業チーム準備状況報告・意見交換

佐藤委員長	・新カリキュラムの準備として各チームの報告に入る。初任研チーム・現任研チームにそれぞれ報告いただき、その後各チームの話し合いの時間とする。 ・初任研チームから報告願いたい。
杉田委員	・今年度の 1 回目の初任研が終わったところ。まとめ役の皆さんからの意見をたくさんいただき、現行の演習を、概ね新カリキュラムの 2 日目までのものとするということで合意が取れている。具体的には、時間配分などの微調整を行う。できれば本日新カリの 2 日間分の時間配分の見直しを行い、次回以降の話し合いでは、演習の 3 日目から 5 日目についてじっくり取り組んでいく。 ・来年度は、多分現任研修が年度の前半にあり、その後演習指導者養成研修、初任者研修と進んでいくと想定している。何が何でも今年度中に仕上げないといけないということではなく、見通しがつくところまでたどり着きたいと考えている。資料 3 が今年度のチームの計画となっている。 ・基本的には検討会がある日程で議論をし、チームメンバーで宿題を 2 回分は持ち帰ってということになる。第 10 回検討会のある 3 月 15 日にはある程度全体の見通しがたつように計画を立てた。
佐藤委員長	・来年度スケジュールが組み変わることも含めご検討いただいた。 ・資料に書いてある「インターバル」についても説明願いたい。
杉田委員	・インターバルのところについては、やはり地域に帰って約 1 か月の間に行うもの

	<p>なので、その間誰が受講者をフォローできるのか。基幹相談支援センターや委託の事業所がある区市町村は良いが、ない区市町村も多いので、そうした時のフォローについてしっかり考える必要がある。都から区市町村へ依頼してもらうことが必要ではないか。時間をかけて考えたい。</p>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて現任研チームから、資料4に基づいて説明をお願いします。
吉澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現任研チームは7月25日に集まり、論点整理を行った。その時の資料が資料4である。 ・1 ページ目の下の部分、国研修で示された現任研のモデルのとおり、研修全体でだと2日目、3日目、4日目の構成等について考えていかなければならないというところを共有しつつ、2 ページ目の上の部分、今の東京都の現任研をどういう形で実施しているのかということをおさらい的に確認した。その上で、2 ページ目の下、「旧カリキュラムから新カリキュラムへのイメージについて」とあるような、東京都の現在の現任研をどう活かすかというところの視点で整理を提案してチームとして合意形成したところ。 ・具体的には現在の現任研の「地域づくり」の演習を新カリキュラムの「コミュニティワーク」の演習に移行させ、「個別支援の検証」のカリキュラムを新カリキュラム1日目の「個別支援検証」に移行するという整理をした。 ・浮かんでくる課題としては、2日目の「チームアプローチ」について、前回の検討会の中でも問題提起したとおり、国から示された内容を少し変えていって良いのではないかと考え、一から企画する必要のある課題を共有した。 ・インターバルについて初任研と同じだが、国から示されたもので果たして行えるのか、その効果はどんなものなのか。そのあたりも考えなければならぬという課題も出た。 ・「スーパービジョン」については、国研修では講義という形で扱うという国から示されたモデルだが、演習の中で取り扱う部分があるといえはる、ないといえはる。要するにグループスーパービジョンの中でスーパービジョンを要素として取り扱っているという整理になっており、果たしてそれで受講者が理解できるのか、検証する必要がある。 ・個別事例を持ち寄る形はベースになっているので、本人同意を含めて持ち寄る際の注意事項についても課題である。そうした課題ごとに役割を分けて、担当を決め(20ページ)、その下のスケジュールを考えた。 ・スケジュールについては、2月に「現任研モデル研修」「チームアプローチ等部分的に」とあるが、国研修修了者のうち、精神領域の「とうきょう会議」という団体から推薦されて国研修を修了している人たちの有志で、不定期に話し合いの場を設けており、フォローアップ研修など企画した経緯などもこれまであったが、そこでもし企画を検証するような機会が必要であれば使ってもらっても構わないというような話を頂戴して、是非そうした機会を活用できればと思っている。具体的には2月までに、先ほどゼロベースで考えなければならぬチームアプローチについて具体的に企画し、モデル研修という形で成果や課題を検証し、それを踏まえて調整し、3月にほぼ完成させて次年度に引き継がれるといいと考えている。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を持ち寄る際の留意事項についても、かなり調整していかなければならぬ必要性を感じた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・これからチームに分かれて話し合いの時間とする。 ・話し合われた内容を書き出すということも行っていく。その後共有の時間とさせて頂くことでよろしいか。他の研修との連続性や新たな課題など、他のチームと共有しておきたいことも話題として頂けたら。
--	--

3 新カリキュラム準備

(2) 今後の準備スケジュール確認

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは報告をお願いしたい。
杉田委員（初任研）	<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラム演習の最初の2日間の分の時間配分の見直しを行った。 ・1日目の演習については、「ニーズ整理」の部分が苦戦するところだったが、そこは時間を延ばすのではなく、言葉の工夫や、まとめ役が演習指導者養成研修でしっかり理解することでクリアできるのではないかと考え、時間変更は行わない。 ・2日目については、「地域課題」のコマを、演習4日目、5日目に持って行く。その分を、「インターバルに向けた説明」の時間と、「サービス等利用計画作成」の時間に充てる。 ・インターバルに向けての説明や、実習をどうやって地域でフォローしていくかは東京都から各区市町村に対して説明の手紙や連絡をしてもらわないといけないと考えている。なおかつ都から地域へ説明会を行うなど。この説明会が、専門コース別研修となっていくこともできるのではないかと、ということも話し合われた。 ・今後は、細かい工夫の仕方を改めて考えていく。
吉澤委員（現任研）	<ul style="list-style-type: none"> ・インターバル以降の役割について、今から決めても具体的に何を検討したらよいか、結局それぞれの演習の枠組みがある程度見えてからでないと考えにくいということで、まずはインターバル以外の3つのチームを作って動き出そうと整理した。検討委員だけでなく、専門員像チーム、既国研修受講者にも合流していただいた。 ・ファシリテーターの体制について、国としてはグループ6人の受講者で構成し、1グループに1ファシリテーターを配置すると考えている。しかしそうすると、都の研修は600人程度受講者がいるので、ファシリテーターが100人必要となる。現状は50人程度で研修を動かしていることを考えると、現実的ではない。結論としては、より望ましいファシリテーター体制、例えば1グループに一人ずつファシリテーターが張りつかなくても良いような、構造化された演習カリキュラムということを都においては前堤として考えていかなければならない。 ・国から示されているモデルでは、基本的には持ち込み事例がどこの演習でも取り扱われる想定になっているが、それで良いのかという話も出た。例えば、コミュニティワークだと、事例を提供する利用者の立場になると、事例を提供したが自分に利益が還ってくると思ったら地域課題として取り扱われていて自分自身に直接還ってくるメリットがあまりない、ということになってしまうこともあるかもしれない。特にコミュニティワークの部分では、「考え方を持ち帰る」という観点でいけば、共通事例が良いのではという整理をした。 ・個別支援検証は個別事例を持ち寄るという形でなく、当然その人の個別支援検証はできないので、個別事例を持ち寄るとして、その持ち寄り方についてはフリースタイルで持ち寄り、スーパービジョンを行うのか、自身で作成した計画を持ち寄り、検証するという形も考えていく必要がある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は、役割分担ごとに動いていく形になる。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な動きがこれから始まるが、その出だしのところをまとめていただいた。 ・ 特に初任研のところは、出された課題が専門コース別研修のリストアップのところにも重複してきたことも、意義のあるものと思っている。都としても専門コース別研修のファシリテーションや人材育成のところまで考えていくべきところと理解した。 ・ 現任研については、難しいテーマが渡される中、初任研と絡めて、どのようにステップアップの土台作りとするか考えなければならないことも難しいと思うが、これから走り出しながら修正等していきたい。 ・ それぞれの報告について、意見や質問はあるか。
吉澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初任研の新カリでの演習は、開始から終了までどのくらいかかる見込みか。
杉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4か月くらいを想定している。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ かかる期間は、全体の規模によって変わらなっている。年間の定員によっては、もう少し長くかかるかもしれない。
杉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのくらいの規模でやるのかは、あとどのくらい新しい相談支援専門員が必要なのかということにもなるかと思う。近年は、毎年 800 人程度の規模で初任研を行っているが、今後の見通しはどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度の規模については、調整中である。 ・ 一時期、相談支援専門員が足りなくて申込みが多数来ていた時期に比べると、だいぶ落ち着いてきてはいるが、地域に潤沢に相談支援専門員が稼働しているかと言えば、そういう訳でもない。研修で全てを解決できるものではなく、色々な要素があると思うが、大きく増減することは色々な意味で難しいと感じている。来年度極端に小さくなったり大きくなったりはしないのではないかと。
杉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新カリキュラムを 800 人規模で行うとしたら期間は 4 か月と考えているが。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 間に年末年始や年度の替わり目があったりするので、実際に研修を行えない時期もある。きちんと研修が行える時期はあまり長くない。
杉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4 月から研修ということはないと思うが、初任研と現任研の時期が重なる想定はあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重ならないことの方が難しいと考えている。
杉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現任研と初任研の間には、演習指導者養成研修を行わなければならない。現任研修を受けた人が演習指導者養成研修の対象者になるので。 ・ サビ管研修との合同で行っている、2 日課程はどうなるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのように組み合わせると良いか、検討しているところ。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度、演習指導者養成研修については、検討会でも合意しているので、今後は心障センターで形にしていくのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業的にはそうしたいと考えている。皆さんの意見もいただきたい。
吉澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ ファシリテーターは、多い人だと何回登場するのか。 ・ 現在の都研修では、初任研で 2 日間を 2 回、現任研で 2 日間を 1 回、最大で 6 日間登場している。新カリになると、演習日数が増えるので、8 日間になる。2 日も増える。 ・ 初任研は、サポーターが入ることが前提ならば、ファシリテーターも必ず 1 グループに 1 人必要になる。
花形委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度、初任研・現任研でファシリテーターが揃っておかなければならないこと

	<p>は多く、ファシリテーターが要領を得ていないと、インターバルに入った時に、地域でさまよってしまう人が増えることが懸念される。来年度、演習指導者養成研修をどうするかはとても重要。地域でインターバルに入った受講生を受け止める人たちは、カリキュラムが変わった初任研のことを知らない（旧カリキュラムで受講した）人たちである。そのような人たちが、「こんな宿題がある」と受講者に見せにこられるので困ると思うし、ファシリテーターもいろいろなことが頭の中に入っていないと、後で困ってくる。ファシリテーターの養成研修は大事であると思う。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 来年度の新しいカリキュラムに登場するファシリテーターに、どれだけ研修の構造や役割を伝えられるかということか。今年度の指導者養成研修にも入れておいた方が良いということか。
杉田委員	<ul style="list-style-type: none"> 初任研でいえば、ニーズ整理から5ピクチャーズを経て計画作成に入る、その中身の理解ができていないと、今年度2回目の初任者研修も苦勞すると思われる。
北川委員	<ul style="list-style-type: none"> 演習指導者養成研修は、初日は1日かけて、「ファシリテーション」を題材にするイメージでいる。初任研の内容で必要なことは、従来の「説明会」のコマで伝えられると考えている。 「ファシリテーション」のコマでも、実際の初任研の題材を使って、「収束」に向けての部分強調して行っていきたくて考えている。 よって、演習指導者養成研修の講師は、初任研の内容も実際のファシリテーションも良くわかっている人に依頼したいと考えている。 このことにより、来年度への足がかりもできると考えている。
杉田委員	<ul style="list-style-type: none"> 初任者チームでは、資料3の右側に「ファシリテーターに必要な視点」ということで、来年度にあたってファシリテーターのこういうところを演習指導者養成研修で頭に入れてもらった方が良くしているの、見ていただきたい。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> 今後は、チームごとの作業に入っていく。それ以外にも「相談支援専門員の姿」についても検討を続けている。「姿」の図には、かなりたくさんの方が盛り込まれているので、年度末に形のあるものを出せるようにしていきたい。 今後のスケジュールについては第5回9/3、第6回10/25、第7回11/2、第8回12/7、第9回2/25、10回3/15（年間まとめ）の予定。 チーム間で調整することがあれば共有会議とするが、基本的にはチームごとに進めて行く。 カリキュラムの完成のめどについては、初任研チームからの資料では3月に向けて完成となっているが、2月開催の第9回には、カリキュラムがおおよそ固まるような形でまとめていただきたい。3月開催の第10回の検討会で、年間のまとめとしたいので、第9回でカリキュラムの完成を目指す方向性でよろしいか。 本日は、これで閉会とする。

4 閉会

事務局	<ul style="list-style-type: none"> 来年度の研修の実施にあたって、なるべくこの議論を活かしたような研修が実施できるように調整しているが、会場の手配とも関係してくるので、今後は各チームの話し合いの中に、事務局も参加させていただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 30年度現任研修の状況について報告。

- 先日受講の可否について、申込者全員に通知を送付した。定員 500 名のところに、申込者が 662 名であった。100 名以上の不受講が発生することとなったが、考え方としては、資格を失効してしまうことで相談支援専門員として動けなくなることを避けることを第 1 に、選考を行った。
- 今回の現任研修では、ファシリテーターは 53 名の方にご協力いただくことになった。
- 30 年度版の各チームのメーリングリストを作成する。登録するメンバーを各チーム事務局にお伝え頂きたい。